

令和4年度 島根県学力調査結果及び分析（松江市立揖屋小学校）

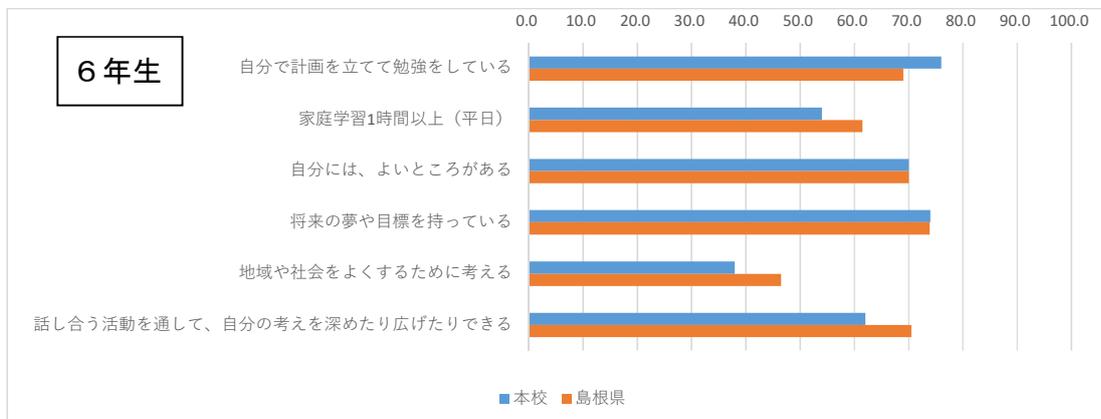
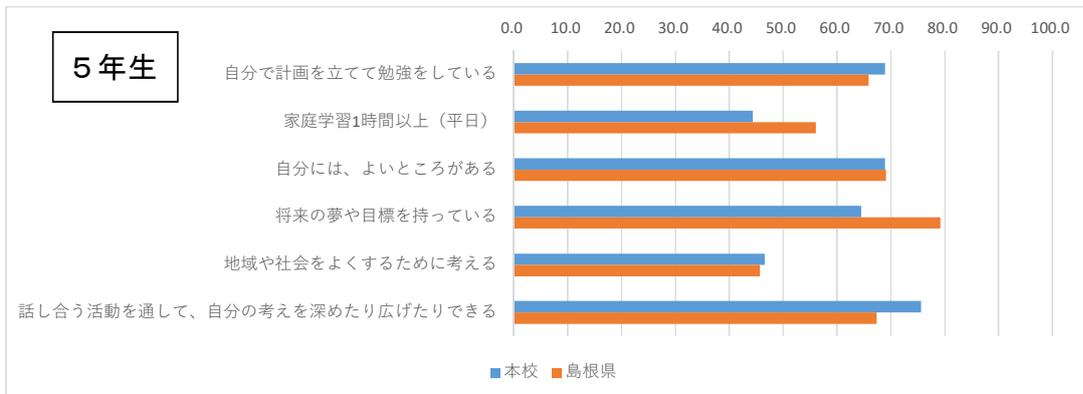
(1) 学力調査結果から見られた成果と課題 (○: 成果 ●: 課題)

5年国語	<p>○文字数などの条件に即して自分の考えをまとめて書く活動を取り入れるようにしたことで、徐々に成果が見られるようになってきた。</p> <p>●問題文の読み取りが不十分のために、思い込みで問題に取り組んでいる実態が見えた。</p> <p>●漢字や言葉のきまりについて定着度が低い。</p> <p>●文中から得た情報をもとにして、目的に応じた文章を書くことに課題が見られる。</p>	6年国語	<p>○テーマを決めて書く作文指導で、示された条件に従って自分の考えを書く活動を継続的に行った。</p> <p>○長文を書くような問題があるプリント類では、全体の時間配分を考慮して取り組むよう習慣化を図った。</p> <p>●漢字や言葉に関する問題の正答率が低い。</p> <p>●説明文の読み取りで、文中の情報と情報を関連付けて理解することに課題が見られる。</p>
5年算数	<p>○単元のまとめにあたって、プレテストなどの練習を繰り返し、学習内容の定着を図った。</p> <p>●単位量あたりの大きさ、体積・容積など、量の大きさに関する分野に課題が見られる。</p> <p>●分数、小数の大きさの比較の正答率が低く、理解が不十分な実態がうかがえる。</p> <p>●小数倍の理解、小数のかけ算、わり算の分野の定着度が低い。</p>	6年算数	<p>○タブレットドリルで問題の反復練習に取り組む機会の設定を大事にした。個に応じた問題に取り組むことができ、学習意欲を高めるとともに学習内容の定着につながった。</p> <p>●課題解決のために、既習事項との関連やそれらを利用することへの気づきができにくい傾向が見られる。</p> <p>●比の値についての問題の正答率が低い。</p> <p>●拡大図と縮図の分野の理解に課題が見られる。</p>

(2) 生活意識調査から見られた成果と課題 (○: 成果 ●: 課題)

5年	<p>○地域の特性を生かした学習を学年段階に応じて取り組ませることで、地域への愛着心は育ってきている。</p> <p>○対話を大切にした活動を取り入れた学習展開の積み上げで、学び合いのよさを感じられるようになってきた。</p> <p>●家庭学習は、質・量ともに見直しが必要で、奨励する内容の具体を提示し、選択していくつかを組み合わせるよう取り組むようにさせる必要がある。</p>	6年	<p>○タブレットを活用した調べ学習を積み上げてきており、自分にとって必要な情報を得る活動を主体的・計画的に取り組むことができるようになってきている。</p> <p>●地域に密着した学習をする学年をコロナ禍で過ごしたことによる体験の不足から、身近な地域への理解や愛着を高めることが不十分だったと考えられる。</p>
----	---	----	---

(3) 意識調査 (教育委員会として注目している項目のうち、全国学力・学習状況調査と同様の質問項目を挙げています)



【受検者数】 5年生 45名 6年生 49名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。